

みのの EDO

東京⇄笠原情報誌 MAIL版

多治見市
モザイクタイル
ミュージアム

開催中

陶磁器試験所と 近代の建築装飾

～笠原モザイクタイルの先駆、山内逸三の学び舎～

多治見市モザイクタイルミュージアムでは、2017年12月から特別展「陶磁器試験所と近代の建築装飾」を開催中(3月4日まで)。1月27日(土)には関連企画「名古屋近代建築観察会」として、名古屋市栄区を中心に街歩きを実施した。展示と観察会の様子を紹介する。



色釉布目花文タイル*1

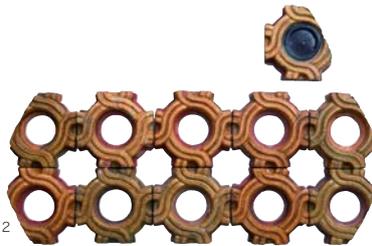


蓮華唐草文タイル*2



花形柱頭装飾*2

伊羅保釉硝子入装飾タイル*2



所蔵する資料の中から、関連する近代のタイル、テラコッタ等を展示。



東洋学園大学壁面フェニックスモザイク
昭和36年(1961)

- *1 産業技術総合研究所中部センター蔵
(愛知県陶磁美術館管理、写真提供：愛知県陶磁美術館)
- *2 陶磁器試験所、滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場蔵
(写真提供：愛知県陶磁美術館)

立体的に装飾が施されたタイル、柱頭装飾に噴水口、階段の欄干のはめ板…。どれも大正、昭和初期にかけて、京都市陶磁器試験場(および国に移管された後の陶磁器試験所)で試作品として製作されたものである。陶磁器試験場は、美術タイルを広めた池田泰山、釉薬研究の第一人者となった小森忍が技師として勤めるなど、タイルに関わる重要な人物を輩出した。この特別展は笠原で施釉モザイクタイルを開発した山内逸三がこの陶磁器試験所の時代に、京都市が改めて設立した講習所で学んでいたことにちなむ。

約16センチ角の色釉布目花文タイルは、組み合わ

せて配置することで模様となる凝ったデザインで、何色かの水彩絵の具を合わせてつくったような複雑な色合い。「見学にいらした釉薬会社の方も、この色はどうやって作るのかわからないとおっしゃっていました」と学芸員の村山閑さん。多様な試作品からは、当時の「新しいもの、美しいものをつくらう」という熱意が伝わってくる。

大きな作品が並ぶ中、1辺2センチほどの菱形をした赤紫色の小さなタイルが目止まる。これと似た色のタイルを山内逸三が製作していると聞いた。現在とのつながりに思いを馳せつつ、鑑賞したい。

丸栄百貨店の
壁画のタイルを
間近に見ました！

1月27日 開催 「名古屋近代建築観察会」

レポート

1月27日13時に名古屋市役所前に集合し、建築装飾をテーマに近代建築をめぐるツアーが開催された。数日前に降った雪が残り、冷たい風が吹くも、頭上には澄んだ青空。建築史家・村瀬良太さんの熱意あふれる解説に聞き入りつつ、普段は入れない場所も特別に見学。充実の4時間だった。
(写真協力/熊本仁志さん、ヨシダヒロシさん)



建築史家・村瀬良太さん



はりきって
スタート!

1 名古屋市役所



2棟が並ぶ様子は壮観。鉄骨鉄筋コンクリート造の建物の上に瓦屋根をのせる帝冠様式。外壁にタイルが張られ、県庁舎の上部の白い部分もモザイクタイル。

2 名古屋県庁舎



3 名古屋国税局



昭和27年築。タイルが高価な時代の全面タイル張り。角には役物を使い、シンプルな外観を作り出している。

6 中北薬品株式会社



5 伊勢久



シンメトリーな構成。スパニッシュ様式を取り入れている。

4 戦争資料館 (旧愛知県庁大津端分室)



7 名古屋テレビ塔



フェニックスモザイクを考案した今井兼次が関わり、鉄塔のデザインモチーフはたけのこ(!)。

ゴール!
お疲れさまでした

9 丸栄百貨店



設計は村野藤吾。外壁を鳩羽紫色のカラコンモザイクで装飾、西面は泰山タイルや大仏タイルといった美術タイルを使って抽象的なモチーフ画が描かれている。



1階ホールの天井のモザイク画は天体を描く。ベネチア製のガラスモザイク、大理石、タイルを使用。

8 中日ビル



東郷青児が手がけたエレベーターの扉。



タイルの祭典・CERASTA2017開催

～中目黒・蔦屋書店

2017年10月28日(土)～11月11日(土)、中目黒蔦屋書店(東京都目黒区)と中目黒GTプラザにて、第2回となるタイルの祭典・セラスタが開催された。

参加企業がオリジナルの椅子を制作、グッズも並び、会場はタイルで埋め尽くされた。11月3日に行われた、タイルドラマパフォーマンスやゲストトークショー、ワークショップの様子をレポートする。

(写真協力/平林ユウイチさん)

タイルびとの会とは

タイルメーカー、商社、問屋、タイル職人を中心とした有志の集まりで、今回の催しには15社が参加。



蔦屋書店は、書籍とともに雑貨や文具を販売、カフェも併設する複合的な書店。会場はイベントスペースのShare Lounge。



様々なタイルグッズやタイルに関する書籍が並ぶ。写真右はセラスタオリジナルのタイル。



タイル椅子は自由に座ってOK。販売もされた(詳細は5ページを参照)。



タイルビュッフェは会期中連日開催。

11月3日は、モザイク作家・中村ジュンコさんによる「日本の伝統工芸とタイル」のワークショップを開催。青森のこぎん刺しをモチーフとし、組子に1センチ角のモザイクタイルをはめんでいく。組子の製作は、静岡県熱海市の西島木工所。



11月3～5日の連休中は、革にタイルを張り、飾りやしおりを作るワークショップを開催。4日は、荒木智子さんによる「秋色モザイクミラーフレーム」を開催。

workshop

タイル
雑貨作り

■ 昨年に引き続き第2回目。会場は蔦屋書店のそばの屋外スペースである中目黒GTプラザ。演奏者はジャズトリオ・H ZETTRIOのKOUさん(ドラマー)と、ブルースロックバンド・MONSTER大陸の千賀太郎さん(ハーモニカ奏者)。ユニット名はKOUTAROで、去年のセラスタのライブを機に結成。会場には竹で制作したオブジェを設置。14時〜と17時〜の2回開催した。

「年いちでタイルドラマーになります」とKOUさんが挨拶。少し叩いて「タイルって、こんな音がするんですね。タイル

は張ってよし、見てよし、叩いてよし」と会場をわかせた。タイルドラムのリズムにのり、ハーモニカの情緒的な音色が町に響く。「シェリーに口づけ」などのよく知られた曲や、オリジナル曲を演奏。



屋外の会場ゆえ、観覧は自由。買い物袋を下げた女性がリズムによって体を揺らしていたり、母親に連れられた小さな男の子が踊っていたりと、ノリがよく親しみやすい音楽は、年齢を問わず楽しまれた。

今回のライブはクラウド・ファンディングで資金を集めた。リターンにはライブ参加権や特別席での鑑賞などを用意。ファンがステージに上がり、一緒にタイルドラムを叩き、会場を盛り上げた。

Events

タイルドラム
パフォーマンス

ゲスト
トークショー

■ トークショーは2回開催し、対談相手はいずれも白石普さん(タイルびとの会会長・Euclid/タイル職人)。

最初のゲストは酒井景都さん(モデル、ファッションデザイナー)。テーマは「美しい暮らし」。

冒頭に酒井さんが、白石さんがタイル装飾を手がけた家に賃貸で住もうとしたというエピソードを披露。また、イスラムタイルで装飾されたハワイのシャングリ・ラ邸の美しさなどが語られた。

酒井さんの両親はアンティーク雑貨店を営み、白石さんの父親は陶芸家、母親は画家で、育った環境のことが話題に。酒井さんはアンティークのものに囲まれ、普段からスージー・クーパーの食器を使用。一方、白石さんは両親が「ドアをカラフルに塗っていた」という古民家で育ち、両親のセンスにより作られた空間という共通点が。白石さんが自宅の床や壁にタイルを張っていることを話すと、「見てみたい!」と酒井さん。身近にタイルを取り入れるならとの話題では、テキスタイルのデザインに使うことや、スカートの下にあしらうなど、デザイナーらしい提案がされた。



日置拓人さん、白石普さん、平田幹人さん(左より)



酒井景都さん、白石普さん、塚原沙耶さん(聞き手)(左より)

次のゲストは、日置拓人さん(一級建築士)。テーマは「建築とタイル」。聞き手は平田幹人さん(タイルびとの会・平田タイル)。日置さんは、INAXライブミュージアムで開催された「つくるガウディ」展で白石さんと共同制作。その展示にちなんだエピソードや、ガウディにまつわる話を披露。

タイルに関する意見として、日置さんより「タイルで装飾ができます、という感覚が日本ではないのではないかと述べた。それを継いで白石さんからは「建築家、デザイナーがもっとタイルを知ってほしい。ヨーロッパでは、タイルの割り付けを優先して柱の寸法が決まる。タイルがきちんとおさまっているのがいいですね」と話した。

タイル椅子

今回の催しの目玉の一つは、参加企業が制作したオリジナルのタイル椅子の展示販売。自由に座ることができ、蔦屋書店内にあるスターバックスコピーから飲み物を持ち込み、タイル椅子でくつろぐ姿が見られた。(写真下は制作した会社名とサイズ(mm))。

Original Work



聖和セラミックス (H450×丸270)

聖和セラミックス (H450×丸270)

カネキ製陶所 (H420×W620×D400)

長江陶業 (H790×W630×D630)

長江陶業 (H790×W630×D630)

KYタイル/ アイコットリョーフ (H800×W600×D600)

梅村タイル店

カネキ製陶所 (H320×W930×D475)

Euclid H420×W420×D450

丸英 (H740×W620×D330)

平田タイル×STUDIO-A/池上将暢 Ikegami Masanobu (H430×W960×D350)

梅村タイル店 (H550×W800×D800)

KYタイル/ アイコットリョーフ (H800×W600×D600)

リビエラ (H450×W450×D450)

エクシズ (H970×W900×D700)

エクシズ (600丸×H700)



大森/KYタイル/アイコットリョーフ H500×W600×D600



大森/KYタイル/ アイコットリョーフ H700×W200×D200



カネキ製陶所 (H490×W1040×D570)



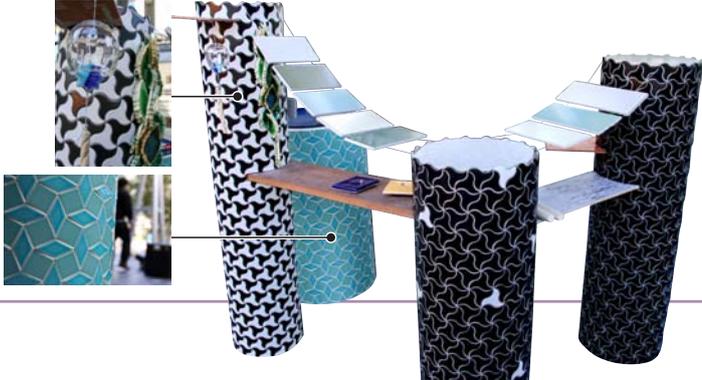
エクシズ (900丸×H1700)

名古屋モザイク工業 (H500×W500×D700)

Original Work

タイルドラム

Euclid(白石普さん) 昨年のタイルドラムをバージョンアップ。ドラムとタイルのサイズを調整し、タイルを切らずにおさめている。



技能五輪2017開催 ～若き職人たちが技を競う

2017年11月24日(金)～27日(月)、第55回技能五輪全国大会が栃木県で開催された。9名の選手が技を競った「タイル張り」競技の様子を紹介する。

技能五輪全国大会は、青年技能者の技能レベルの日本一を競う技能競技大会(主催:厚生労働省、中央職業能力開発協会)。選手は原則23歳以下で、今年は全国から約1,340名の選手が集まり、42職種の競技が行われた。

会場は宇都宮市を中心に県内17カ所に分かれ、「タイル張り」競技は、にしなすの運動公園で行なわれた。同会場では「建築大工」「造園」「とび」の競技も開催。

「タイル張り競技」には、9名の選手が参加。課題は、開催地にちなんだデザインによる壁および床のタイル張り、目地詰め、今回は名産のいちご、中禅寺湖と男体山がモチーフとなった。

競技期間は、25日8:30～12:00、13:00～16:45、26日8:00～12:00の2日間。完成課題の外観だけでなく、段取りなどの施工法や作業時間、整理整頓などの作業態度も評価対象となる。

競技者が課題に真剣に取り組む姿に、来場者が思わず見入る。会場の一画には、こてやタイルカッターなどの道具を展示。解説のもと、実際に道具やタイルに触れられるようになっていて、タイル切りに夢中になる子どもたちの姿も。「県内高校生による競技解説ガイド」というブースも設けられており、一般の人たちに技術を知ってもらう役割も担っている。



こてなどの道具を自由に手にとることができる。やり方を教わりつつ、タイル切りに挑戦する子どもたち。



会場となった「にしなすの運動公園」。



屋外には地元の飲食店の出店もあり、にぎわいを見せていた。タイル張りの体験ができるスペースもあり、大人も子どもも楽しんでいた。



競技のポイント

- 課題に従い墨出しを行います。
- 課題に合わせて割付(レイアウト)タイルの加工を行います。
- 壁及び床を想定した下地にタイルを張ります。
- 目地の仕上げを行います。



金賞の早川大貴選手。入賞者は以下のとおり。

- 金賞 早川大貴(山口県/山口総合建材(株))
- 銀賞 薄井悠希(栃木県/ハシモ(株))
- 銅賞 榎本匠(栃木県/ハシモ(株))
- 敢闘賞 津志田結輝(岩手県/(株)奈良屋)